

音威子府村 まち・ひと・しごと創生 総合戦略



音威子府村公式キャラクター おとっこー

森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぷ

目 次

I 総合戦略について	
策定の趣旨	1
対象期間	1
音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ	2
評価・検証の仕組み	3
II 音威子府村の総合戦略の基本的な視点	
音威子府村の強みと人口問題への対応	4
音威子府村の総合戦略のイメージ	5
III 音威子府村の総合戦略	
音威子府村の総合戦略の全体像	6
1 村の振興の要となる高校の機能強化	7
① 高校の仕組みの強化	7
2 卒業生のための雇用の場の創出	8
① 新エネルギー産業等立ち上げによる雇用の創出	8
② 新規就農者・農業後継者の育成強化	8
3 高校を軸とした人の流れの促進	10
① 卒業生のUターン・定住促進	10
② 高校を活用した交流の拡大	10
③ 学校間連携の強化	11
4 高校生参加による個性的で魅力ある村づくり	12
① 高校生の村づくりへの参加促進	12

I. 総合戦略について

策定の趣旨

- 加速する人口減少や少子高齢化に対応するため、国は「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方における「まち・ひと・しごとの創生の好循環」を確立し地方への新しい流れを生み出すため、「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」という4つの政策パッケージを提示しています。
- 音威子府村においても、社会的な少子高齢化の影響や、札幌市や旭川市といった都市部への若者を中心とした人口の流出等により、1990年の1,584人から2010年には995人（20年間で589人の減少）にまで人口が減少しています。また、「音威子府村人口ビジョン」（以下、人口ビジョン）で示したように、本村の趨勢人口は、今後も減少傾向で推移し、2020年に760人程度、さらに2060年には235人程度にまで減少することが見込まれます。
- 少子高齢化を背景とする人口構造の変化や人口減少は、本村における経済活動やコミュニティ活動等の活力を衰退させ、ひいては本村における安定した生活・暮らしのものの存立を脅かす事態となることが危惧されます。
- このような状況認識のもと、国・道の総合戦略を勘案しながら、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後村がめざすべき方向性を示す「音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、総合戦略）を策定します。

対象期間

- 総合戦略の対象期間は、国の総合戦略と同じく2015年度から2019年度までとします。

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
音威子府村 まち・ひと・しごと 創生総合戦略	策定				

音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

○村の最上位の計画として2013年度に策定した「第5期音威子府村総合計画」(以下、総合計画)があり、本村ではこの計画に基づいて、総合的な村づくりの取り組みを進めています。

○総合戦略は、こうした総合計画の取り組みを踏まえ、人口ビジョンで示す戦略人口を達成するために必要な4つの政策分野ごとの基本目標を示すものです。また、各政策分野を構成する施策・事業については、効果を客観的に検証するための重要業績評価指標(KPI)を設定しています。

[「人口ビジョン」「総合戦略」と「総合計画」]

第5期音威子府村総合計画

【将来像】

森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぷ

【基本目標】

- 自然を守り、自然を活かしたむらの活力の創造（自然環境・防災・産業等）
- 村民の支え合いと、快適な住みよいむらの創造（福祉・子育て・生活基盤等）
- 人が育ち・みんなが参加するむらの創造（教育・文化・住民参加等）

【重点プロジェクト】

音威子府村7つのレインボー夢プロジェクト

人口ビジョン

人口の現状分析

人口動向の分析

将来人口
シミュレーション

将来展望

将来の人口規模
(戦略人口)

戦略人口を前提に
描かれるまちの姿

総合戦略

政策分野ごとに4つの基本目標を提示

効果検証のためのKPIを設定

「総合計画」は、総合戦略に位置づけられた取り組みだけでなく、将来の人口規模等とリンクしながら予見・予想される様々な問題・課題に対応する取り組みを含め、音威子府村の最上位の計画として位置づけるものです。

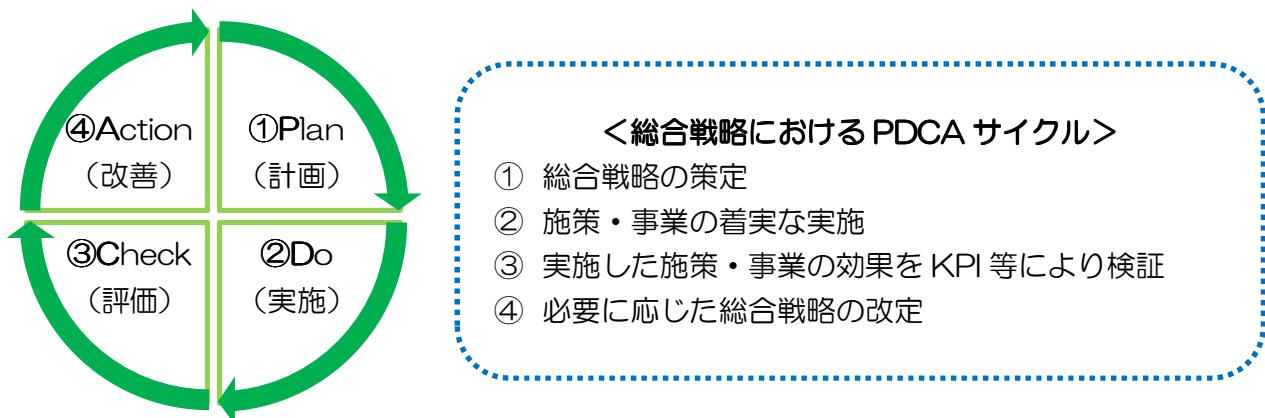
「人口ビジョン」は総合計画を踏まえ、戦略人口とその実現を前提にした将来の音威子府村の姿を示すものです。

「総合戦略」は、人口ビジョンにおいて設定された将来人口規模(戦略人口)を達成するための戦略であり、予想される問題・課題のすべての対応を扱うものではありません。

評価・検証の仕組み

○総合戦略については、計画の推進をより実効性あるものとするために、評価・検証とともに、その結果を踏まえ、必要に応じた計画の見直しを行うものとします。

○そのため、『PDCAサイクル』による評価・検証の仕組みを確立するとともに、評価・検証の客観性・妥当性を担保するため、外部有識者等の参画する評価・検証組織を設置します。



II. 音威子府村の総合戦略の基本的な視点

音威子府村の強みと人口問題への対応

[音威子府村の特性の検証]

○本村においては、美しく豊かな自然やそこで暮らす人々の優しさや温かさが村の魅力の基盤となっており、独自の自然環境を活用したスキー・キャンプ場や天塩川温泉、また村の自然環境に魅了された砂澤ビックのアトリエを活用したエコミュージアムおしまセンター等の施設は、本村の重要な観光資源となっています。さらに、すでに音威子府ブランドとして認知されているそばをはじめ、豊かな自然の恵みから生み出される特産品は、おといねっぷファンの獲得にも寄与しています。



○しかしながら、こうした自然やその活用は村の特性であると同時に、規模や質に差はあるものの、我が国全体、とりわけ北海道においては広くみられる特性でもあり、特に喫緊の人口問題への対応という観点からは、自然やその活用のみを問題・課題解決の根拠・手段とすることは困難であるといえます。

[人口問題への対応の可能性の検証]

○人口減少（人口規模）や少子高齢化（人口構造）の問題に対応するためには、一般論としては出生数の増加へ向けた合計特殊出生率の上昇と、若者を中心とした転入の促進・転出の抑制への取り組みが重要となります。本村の人口規模や人口構造を勘案すると、出産が期待される年齢層の女性の数は限られており、合計特殊出生率が上昇したとしても、大きな人口の増加は望めないのが現状です。



○一方で、本村には『おといねっぷ美術工芸高等学園』の存在があり、同校には毎年道内外から40人の生徒が入学し、卒業までの3年間を音威子府村の村民として過ごしています。すなわち、本村においては、同校の生徒として毎年15~18歳の若者120人程度が担保されることになります。これはすでに、現状の村の人口の1割以上を占める規模であり、人口ビジョンで示した戦略人口が実現した場合の2060年においては、同校の生徒が2割以上を占める状況となることが想定されます。

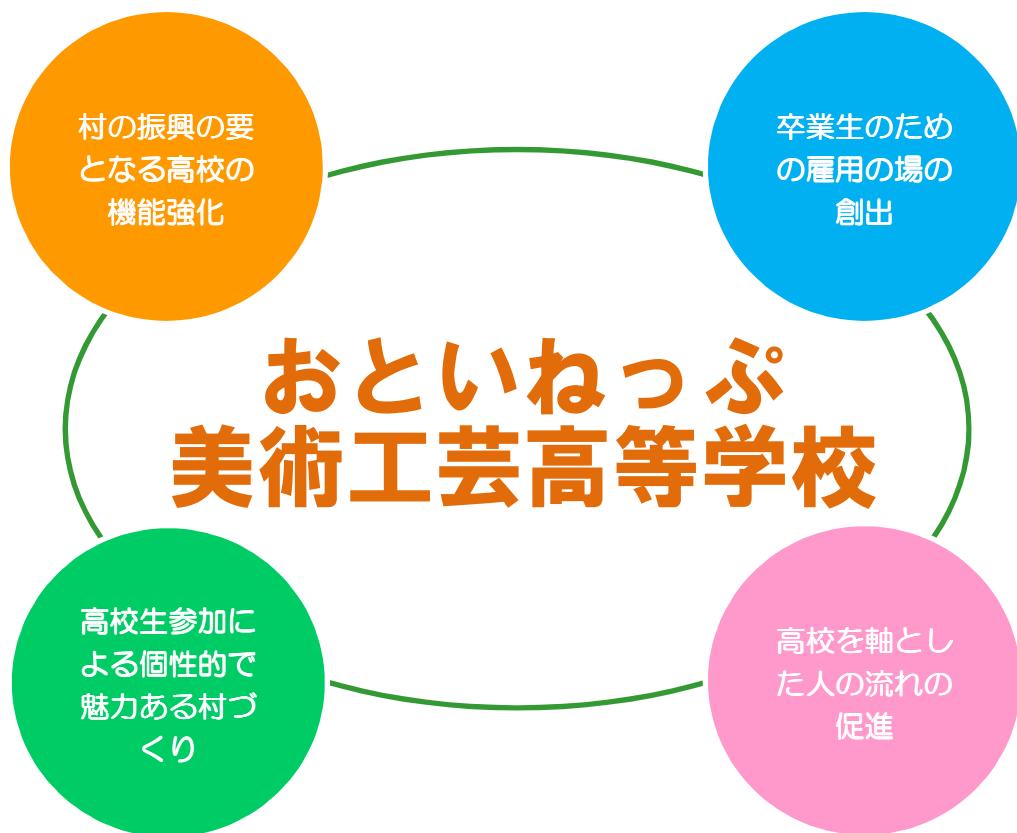
○このような人口構造は、他の自治体にはみられない村独自の特殊性であると同時に、同校の維持・発展及び卒業生の定住・リターン促進へ向けた取り組みを進めることは、人口減少・少子高齢化の問題・課題解決への大きな可能性を含んでいることから、同校の存在は人口問題に対応するための本村における最大の強みであるといえます。

[最大の強みの活用による人口減少の抑制]

- おといねっぷ美術工芸高等学校の生徒は、学校や村での生活をとおして、その9割以上が村への愛着を感じるようになり、半数程度は今後も村に住み続けたいと考えているものの、進学のためだけでなく、自分を活かせる就業の場の不足や生活上の不便さ等の理由から卒業と同時に転出する、という実態が 2012 年度に実施した高校生アンケートの結果から明らかになっており、このことは現在も変わらぬ実態であると判断します。
- すなわち、同校の卒業生の雇用の受け皿や 3 年間で培った技術や創造力を発揮できる活動の場をつくることに加え、住環境の整備・経済的な支援等を拡充することにより、卒業後の定住だけでなく、進学や就職等で転出した卒業生の U ターンを促進し、音威子府村で働き、子どもを産み・育てるという好循環を生み出すことが可能であるといえます。

音威子府村の総合戦略のイメージ

- 音威子府村の総合戦略においては、音威子府村の最大の強みであり、他の自治体にはない独自性や村の未来を担う人材を創り出すポテンシャルという観点から、おといねっぷ美術工芸高等学校を中心に置き、すべての基本目標と連動させることとします。
- さらに、国の総合戦略も勘案し、「村の振興の要となる高校の機能強化」「卒業生のための雇用の場の創出」「高校を軸とした人の流れの促進」「高校生参加による個性的で魅力ある村づくり」を 4 つの基本目標として設定します。



- なお、現在村が重点的に推進している「バイオガスプラントの整備」「福祉の総合的拠点としての高齢者複合型施設の整備」については、総合戦略において、おといねっぷ美術工芸高等学校卒業生の雇用の場として位置づけます。

III. 音威子府村の総合戦略

音威子府村の総合戦略の全体像

基本目標(数値指標、2019 年度)	具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)
<p>1. 村の振興の要となる高校の機能強化</p> <p>◇高校の入学者数 年 40 人</p>	<p>①高校の仕組みの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問実施回数
<p>2. 卒業生のための雇用の場の創出</p> <p>◇卒業生の新規就業者数 5年間で6人</p>	<p>①新エネルギー産業等立ち上げによる雇用の創出 ②新規就農者・農業後継者の育成強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオガスプラント事業関連就業者数 ・高齢者複合型施設関連の就業者数 ・新規就農者数 ・農業後継者数
<p>3. 高校を軸とした人の流れの促進</p> <p>◇卒業生の移住者数 5年間で5人 ◇展覧会の入場者数 年 1,500 人</p>	<p>①卒業生のUターン・定住促進 ②高校を活用した交流の拡大 ③学校間連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者複合型施設就業に 関わるUターン者数 ・短期移住体験者数 ・展覧会の開催数 ・学校紹介DVDの制作 ・おといねっぷ美術工芸高等学校応援団の組織化 ・レクサンド校への生徒派遣数 ・留学生の受入数 ・大学との連携授業数
<p>4. 高校生参加による個性的で魅力ある村づくり</p> <p>◇高校生参加の村づくり事業数 5年間で2事業</p>	<p>①高校生の村づくりへの参加促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生によりデザイン化された村内施設数

1. 村の振興の要となる高校の機能強化

高校の入学者数40人（2014年度）→~~年~~40人（2019年度）

[現状と課題]

○おといねっぷ美術工芸高等学校の存在は村の喫緊の人口問題・課題に対応するための最大の強みであり、同校の維持・発展やそれに伴う生徒の確保は、村の振興の要であるといえます。そのためには、教育環境の充実等、高校の魅力向上につながる機能強化が重要となります。

[具体的な施策]

① 高校の仕組みの強化

道内石狩学区及び上川学区といった、入学志願者が多い地区の中学校を訪問し、継続的な生徒確保を図るとともに、道内町村立高等学校を設置する自治体との連携を強化します。また、将来的に少数学級化を念頭に置き、既成概念に捉われず、様々な視点から、高校の仕組みの強化の検討を行います。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
中学校訪問実施校数	年111校	年111校

<主な事業>

- ・村立おといねっぷ美術工芸高等学校振興事業（生徒募集のための中学校訪問）
- ・道内の町村立高等学校を設置する自治体と連携した学校紹介、入学案内事業。特に上川管内の町村立高等学校を設置する自治体との連携強化。
- ・シニア向けサマースクール事業
- ・美術工芸教育の質を高める環境の充実事業
- ・30人2学級制の導入検討

[期待される施策の主な効果]

- ◇教育環境等の機能強化による高校の魅力向上
- ◇高校の魅力をベースとした中学校訪問等による生徒の確保
- ◇生徒の確保による「おといねっぷ美術工芸高等学校」の維持・発展

2. 卒業生のための雇用の場の創出

卒業生の新規就業者数〇人（2014年度）→5年間で6人（2019年度）

[現状と課題]

○2012年度に実施した高校生アンケートでは、卒業後に音威子府村への定住意向があるが、自分の能力を活かせる就業の場の不足から、村への定住が困難な現状が浮き彫りになりました。また、村が同年に「地域おこし協力隊」制度を導入して以降、卒業生のUターンが徐々にみられるようになっていることからも、村内での就業ニーズの高さが伺えます。雇用の場の創出は卒業生の定住・Uターンへの直接的な効果が見込まれることから、早急な取り組みが求められます。

[具体的な施策]

① 新エネルギー産業等立ち上げによる雇用の創出

バイオガスプラント事業や高齢者複合型施設事業等を村の新たな産業として立ち上げ、おといねっぷ美術工芸高等学校の卒業生のための雇用の場として活用します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
バイオガスプラント事業関連就業者数	—	5年間で1人
高齢者複合型施設関連の就業者数	—	5年間で2人

<主な事業>

- ・音威子府村バイオガスプラント事業
- ・高齢者複合型施設事業
- ・半工半農制度（半年工芸等制作活動・1年の半年農業従事）事業

② 新規就農者・農業後継者の育成強化

村の基幹産業である農業の振興に向け、新規就農者や農業後継者、バイオガスプラント事業に関連する新規就農者等の育成強化に向けて、営農実習を指導する指導員や受講者、農業後継者に対し、様々な助成制度を活用します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
新規就農者数	—	5年間で3人
農業後継者数	—	5年間で2人

<主な事業>

- ・新規就農者対策事業
- ・農業後継者対策事業
- ・音威子府村農業振興事業

[期待される施策の主な効果]

- ◇卒業生を中心とした若者の雇用の場の創出
- ◇卒業後の進路の選択肢の拡充による高校の魅力向上
- ◇村内の農業を中心とした産業の後継者の確保
- ◇就業に伴う卒業生の定住・Uターン

3. 高校を軸とした人の流れの促進

卒業生の移住数1人（2014年度）→5年間で5人（2019年度）

展覧会の入場者数 700人（2014年度）→年 1,500人（2019年度）

[現状と課題]

○2012年度に実施した高校生アンケートでは、就業の場の不足と並び、生活の不便さが定住への課題として明らかにされました。住環境の整備や経済的な支援等により、一般的な生活をする上での不便さの解消が求められます。同時に、利便性の高い札幌や東京等の都市にはない魅力を高め、音威子府村への人の流れを生み出すという観点から、おといねっぷ美術工芸高等学校を活用した交流の拡大と、同校のPRの強化が重要となります。

[具体的な施策]

① 卒業生のUターン・定住促進

新しい産業・既存産業の雇用の受け皿を活用した移住・定住促進に加え、短期移住体験や奨学金返済の一部免除制度等、おといねっぷ美術工芸高等学校の卒業生の多様なニーズに対応した移住・定住施策を展開し、卒業生のUターン及び定住を促進します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
高齢者複合型施設就業に関するUターン者数	—	5年間で5人
短期移住体験者数	9人（延べ243日）	年12人（延べ300日）

<主な事業>

- ・卒業生のUターン促進事業
- ・短期移住希望者の受入事業
- ・介護・医療等、地元雇用を条件とした大学・専門学校奨学金返済の一部免除
- ・Wi-Fi環境の整備事業
- ・美術・工芸大学等のゼミ誘致事業
- ・卒業生によるアーティストインレジデンス推進事業

② 高校を活用した交流の拡大

旭川・札幌に加え、東京・大阪・名古屋といった国内主要都市における生徒の作品展示、学校紹介DVDの制作により、おといねっぷ美術工芸高等学校の魅力的な取り組みをPRし、生徒の確保につなげます。また、村の魅力を発信するため、生徒の家族等を対象とした滞在体験型事業や、おといねっぷ美術工芸高等学校応援団の結成を推進し、生徒の家族との絆を深め交流機会を設けます。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
展覧会の開催数	旭川・札幌・地元 各地域で年1回	東京・旭川・札幌・地元 各地域で年1回
学校紹介DVDの制作	—	1年間収録しDVD化 中学校へ配布
おといねっぷ美術工芸高等学校応援団の組織化	—	5年間で1組織化 卒業生の親で希望される方 ※PTAではない組織

<主な事業>

- ・東京23区を含め大都市圏等での木の手づくり展事業
- ・学校紹介DVDの制作事業
- ・おといねっぷ美術工芸高等学校応援団の結成
- ・家族滞在体験型事業

③ 学校間連携の強化

姉妹校であるスウェーデンのレクサンド高校への生徒の派遣及び留学生の受け入れや、東海大学と共同によるデザインスクールの実施により、両校との連携の強化を図ります。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
レクサンド校への生徒派遣数	3人	年3人(5年間で15人)
留学生の受入数	2人	年3人(5年間で15人)
大学との連携授業数	3回	年3回(5年間で10回)

<主な事業>

- ・国際理解教育事業（レクサンド高校への生徒派遣及び留学生の受入）
- ・高大連携事業（東海大学との連携授業の実施）
- ・【再掲】村立おといねっぷ美術工芸高等学校振興事業

[期待される施策の主な効果]

- ◇生活環境向上による卒業生を中心とした若者等の定住・Uターン
- ◇おといねっぷ美術工芸高等学校のPRによる音威子府村の地域ブランドの向上
- ◇おといねっぷ美術工芸高等学校を中心とした交流拡大による同校の魅力向上
- ◇音威子府村の魅力向上に伴う本村への新しい人の流れの創出

4. 高校生参加による個性的で魅力ある村づくり

高校生参加の村づくり事業数〇事業（2014年度）→5年間で2事業（2019年度）

[現状と課題]

○おといねっぷ美術工芸高等学校はアートの村である本村の顔であり、木材等の美術に特化した独自の学びを求めて道内外から集まる生徒の存在や、彼らの作品は、村民の大きな自慢となっています。一方で、作品の展示は現状では校内や展覧会での公開等に限られており、こういった作品や生徒の創作能力を村づくりの中に活用できる余地がみられます。また、村民と高校の生徒との交流の場や機会も限定的であることから、新たな交流の場や機会づくりも望まれます。

[具体的な施策]

① 高校生の村づくりへの参加促進

おといねっぷ美術工芸高等学校の生徒の協力により、アートの村にふさわしい音威子府村の景観づくりを推進します。また、高校生と村民の交流を促進するため、村民による高校1年生の里親制度を推進します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2014年度)	目標値 (2019年度)
高校生によりデザイン化された村内施設数	—	5年間で2か所

<主な事業>

- ・公共施設を活用した作品展示公開事業
- ・村民による高校1年生の里親制度事業

[期待される施策の主な効果]

- ◇村内施設のデザイン等、能力を活かして村づくりに参加できるという高校生活の魅力向上
- ◇アートの村としての景観づくりによる音威子府村の魅力向上
- ◇村民との交流による、高校生にとっての頼れる大人の確保